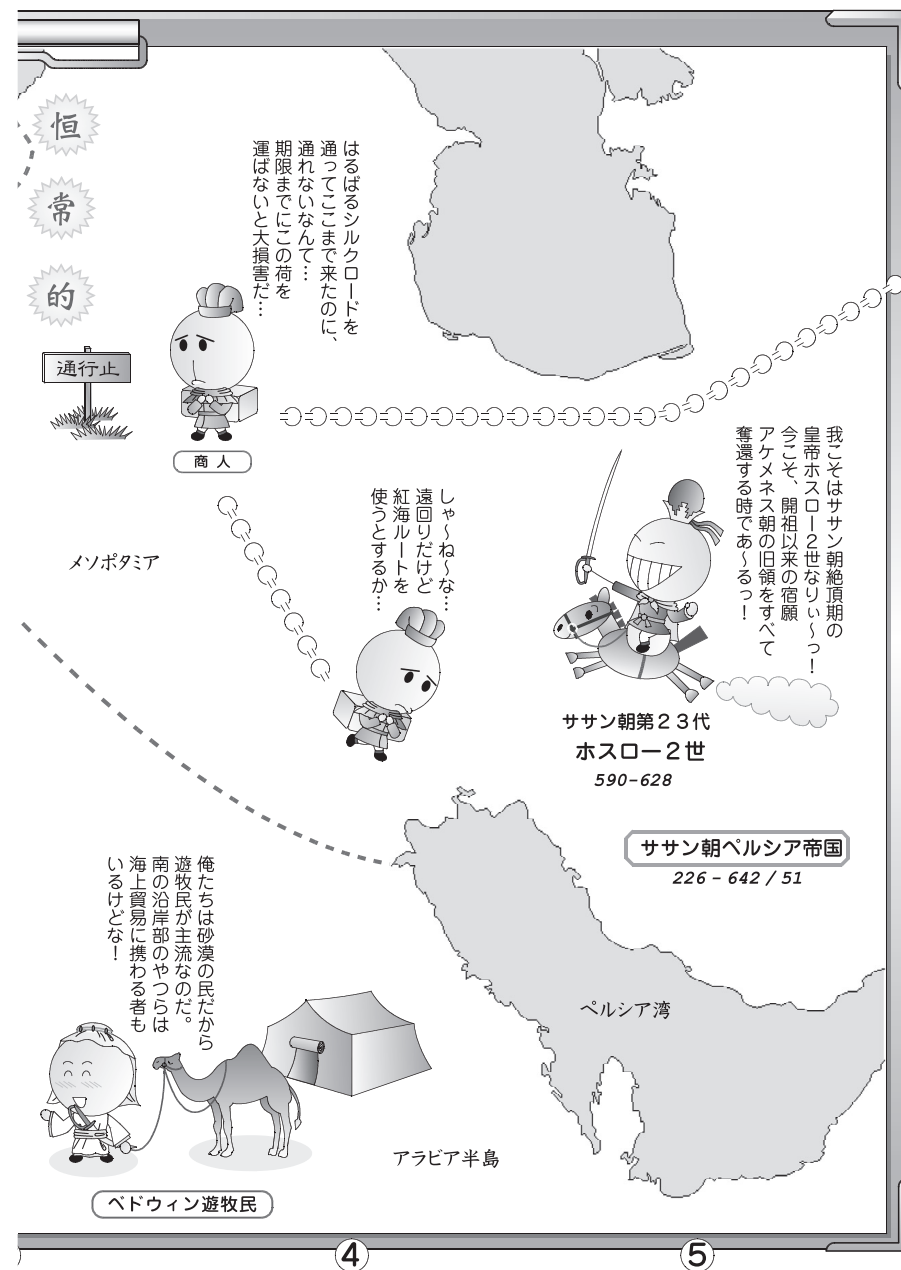
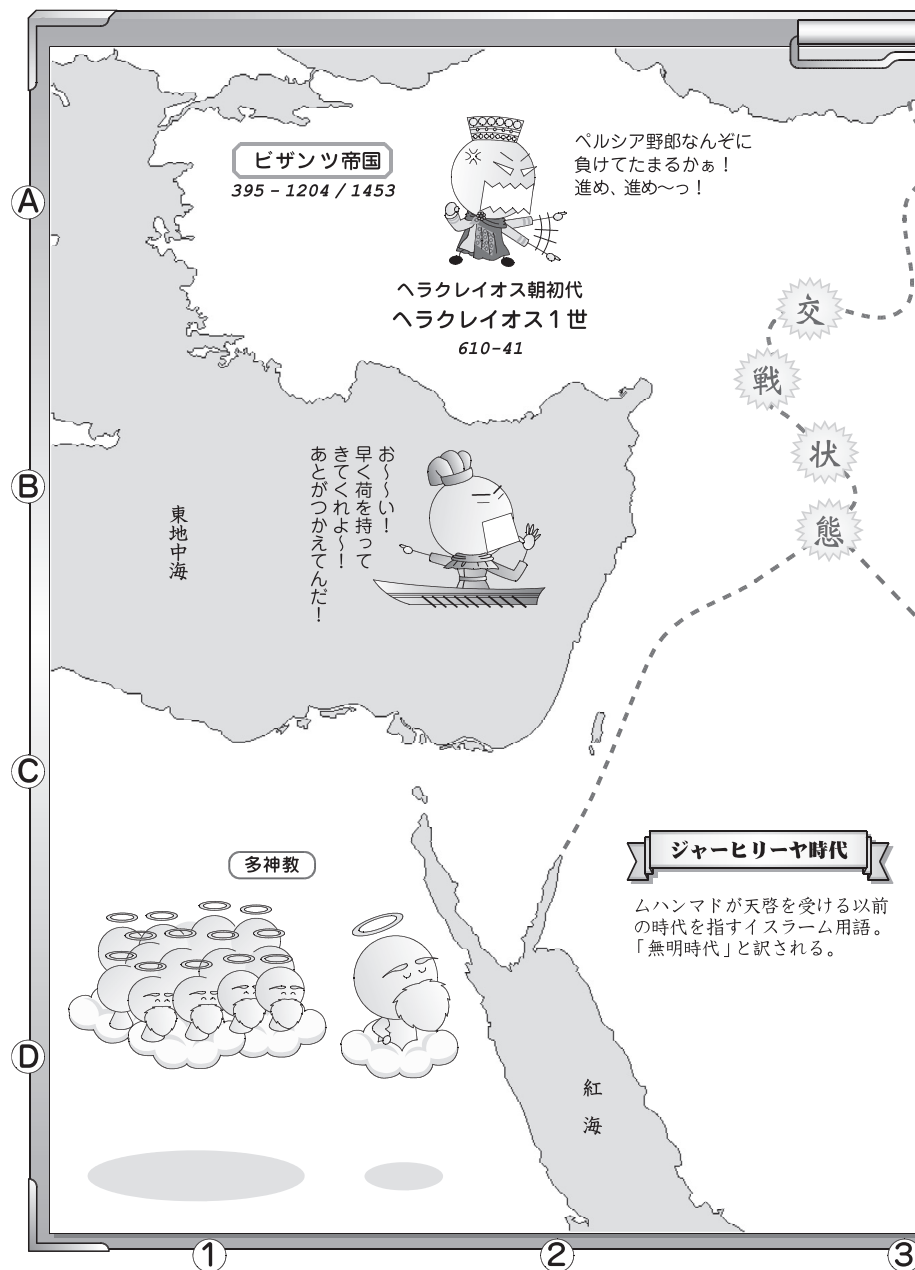




イスラーム^(※01)。

我々日本人は、とかくイスラームに疎く、ただ悪しき先入観ばかりが先行しがちとなっていますが、彼らの歴史を学ぶことはたいへん意味深く、重要なことです。

イスラームは、6世紀まで、この地球上に影も形もありませんでした。

それが、ある日突然、砂漠のまん中にポツンと生まれたかと思うと、またたく間にアラビア半島(D-3/4)を統一した^(※02)ばかりでなく、あれよあれよという間に、アジア大陸・ヨーロッパ大陸・アフリカ大陸を席卷し、3大陸を股にかけた大帝国を築き上げていきました。

こんな宗教・国・民族が他にあったでしょうか。

その空前絶後の巨大なエネルギーとパワーは、いったいどこから来たのでしょうか。

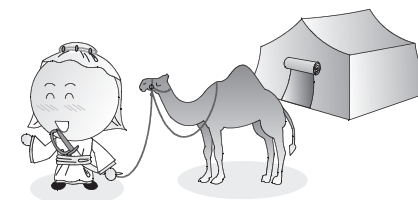
さらに、イスラームの発展は一時的なものにとどまることなく、現在でもその宗教圏は拡大することはあっても縮小することなく、信者の数も世界第2位^(※03)を誇っています。

世界情勢を語る上で、イスラームの理解は必要欠くべからざるものとなっているのです。

それでは、まず最初に、イスラームが具体的にどのようにして生まれてきたのか、その成り立ちから見ていくことにいたします。

イスラームは、人類悠久^{ゆうきゆう}の歴史の中で、わずか1400年ほど前^(※04)に砂漠の民の中から突如として出現した、まだ比較的新しい宗教^(※05)です。

イスラームの歴史では、イスラーム成立以前の歴史のことを、「ジャーヒーリヤ^{さげす}^(※06)」と呼んで蔑み、イスラーム以降の時代とは明確に区別しています。(C/D-3/4)^(※07)



「光」そのものたるイスラームが存在しない暗い時代。

「多神(D-1)を信じ、唯一神アッラーを信じていなかったため、ひとり残らず地獄に落ちている暗黒の時代」と考えます。

しかし、そういう発想が我々には独善的で不快に感じられます。

そもそも、イスラームがまだ存在していなかった時代、「ムスリム^(※08)」になりたくてもなりようもないわけで。

それでもなお「地獄行き」なのか、と。

もちろん、イスラームの答えは、問答無用で「地獄行き」です。

しかし、ムスリムが「無明・無知・暗黒^{さげす}」と蔑むこの時代こそ、イスラームを育む、揺籃^{ようらん}の時代でした。

(※01) むかしは「イスラム教」と呼ばれていましたが、より原音に近いのは「イスラーム」であること、また、これは単なる「宗教」に限定されるものではなく、文化・政治・法などなど生活全般と一体化したものであるため、「～教」という「あたかも宗教に限定されたような呼び方」はふさわしくないという議論がなされ、最近では単に「イスラーム」と「教」を付けずに呼ばれることが多い。

ただし、イスラームの中の「宗教」という側面に限定して論じたい場合は、「イスラム教」という表現を用いることもありますので「イスラム教」が間違った表現だというわけではありません。

(※02) このころまで、アラビア半島は、人類の歴史開闢以来、一度たりとも統一されたことがなく、イスラームが半島統一を達成したのは、史上初のことでした。

(※03) その信者数は12億人。

第1位は、言わずと知れたキリスト教で20億人。

3大宗教に数えられる仏教はガクンと少なくなり、3億人強。

(※04) 西暦で言うと610年。

(※05) ちなみに、仏教・儒教・道教・ヒンドゥー教・神道などアジアの宗教はおおよそ2500年前後、一神教の筆頭・ユダヤ教は3300年、比較的若いキリスト教ですら2000年ほどの歴史があります。

(※06) イスラームという「光」がなかった時代、すなわち「無明時代」「暗黒時代」「無知時代」という意味です。

(※07) 本書は、各項冒頭の「パネル絵」と照らし合わせながら読み進めることで、たいへん理解しやすいように構成されています。したがって、今説明している箇所が「パネル上のどの部分か」ということが表示されています。

(A-1)は「パネルのA段と第1列の交差点」つまり「パネルの左上」を示し、(B/C-3)なら、「パネルのB段とC段の間と第3列の交差点」つまり「パネルのまん中」の位置を示します。

(※08) アラビア語で「イスラム教徒」という意味です。

本書で多用される言葉ですので、かならず覚えておいてください。